

■（４７）校長あいさつと原稿執筆は同じ

「夫婦には３つの袋があると言われます」。結婚式の定番スピーチだ。いつも同じ祝辞で乗り切る人がある。でも相手は毎回違う新郎新婦だから、新鮮に受け止めてくれるだろう。そうはいかないのが校長先生のあいさつ。常に変えないと、子供に手抜きがばれてしまう。

新聞の原稿で使う言葉も同じだ。同じ単語を繰り返すことを極端に嫌う。格好悪いというより、美しくない文章と考えている。そのため、例えば「転居」と書いたら、次は「引っ越す」と表現。さらに「住まいを変える」というように、何とか言い回しを変えていく。

書き方を工夫する努力は、文を練ることにつながる。内容も良くなると信じている。その意味で、できるだけ使わないように心がけている一つの動詞がある。「行う」だ。

何も考えないで原稿を書くには便利な小道具だろう。名詞の後につければ動きを示すことができるからだ。「実験を行う」「体操を行う」。しかし、ていねいにすいこうすれば、「実験する」「体操する」で済むはずだ。無駄な文字数を使っていることにもなる。

ここまで来て、このテーマを選んだことを後悔している。神経がすり減ってきた。（山）